

おかださんの台所活動報告書⑥

C318014 梅田藍子

【活動の流れ】

16時半～17時半 お弁当作りの手伝い

17時半～ お弁当配布、食事配膳

【参加人数】

お弁当の数→25個

食事をする人→4人

【メニュー】

ひじき、たけのこのきんぴら、筑前煮、ポテトサラダ、ささみキュウリ（玉三屋食品からの寄付）

野菜の天ぷら、鶏肉のチーズ焼き、パイナップル

【感想】

私は2月25日に開催された子ども食堂に参加をさせていただいた。おかださんの台所の特徴の1つでもあるおかずが多くバランスの取れた食事が今回は更に豪華になっていた。話を聞くと愛知県名古屋市にある玉三屋食品さんからお惣菜を寄付していただいたそう。賞味期限が近いお惣菜をもらってほしいとのことである。どのお惣菜も分量が多くお弁当に分けてもまだ十分余ってしまうほどであった。そのためボランティアスタッフの私たちもお惣菜を分けてもらった。地道に活動を続けていくことでどこからか子ども食堂の情報がいきわたり、こういった支援をいただくことができることは非常にありがたいことである上に、これからも今まで以上に多くの方に子ども食堂の存在を知ってもらえればと思う。新型コロナウイルスの影響も大きくだんだんと食事に来るお客さんが減少しているのが気がかりな点である。地域の人とのコミュニケーションを取れる場所でもある子ども食堂の持ち味が活かされていないのが残念なところである。状況が落ち着くのがいつになるかわからないため何か策を考える必要もあるかもしれない。



お惣菜



信如園さんからの
節分のまめの寄付



おかださんの台所活動報告書⑤

C318014 梅田藍子

【活動の流れ】

12時～12時半 子どもの宿題を見守る

12時半～13時半 食事配膳、景品配り

【メニュー】

カレーライス・フルーツ



私は12月28日(月)に開催された子ども食堂に参加させていただいた。今回はおかださんの台所では初めての試みとなる、お昼に開催を行った。以前から長期休みの時などにお昼に子ども食堂を開いてほしいという声は上がっていたそうだ。確かに長期休みの子どものお昼ご飯に頭を抱えている主婦の方は多いと思う。子どもだけで調理をするのは危険スタント食品の生活が続くのは成長期の子どもにとってあまり好ましくないであろう。そういったことを考えるとお昼開催は非常に需要のあるものだと思った。また、今回は冬休みの宿題をやろう。ということで、子ども食堂開催前の時間から、場所は開いており、宿題を行う場として提供されていた。私が到着したときにも兄弟が宿題を黙々とやっていた。家と違う場所でやることによって集中力も上がるのではないかと思う。12時半からは子ども食堂として開催した。この日訪れた人数は15人で、常連の方が多く見られた。今回はくじ引きも開催された。消しゴムとチョコレートのくじ、箱を破り中の景品をもらうものがあった。駄菓子屋やお祭りによくあるもので今年はお祭りにあまり行けなかったこともあるため、子どもたちが喜んでいたので、こちらもうれしい気持ちとなった。



箱を破っている
様子

おかださんの台所活動報告書④

C318014 梅田藍子

【活動の流れ】

- 17 時～17 時半 食事の盛り付け、サンクスカード準備
17 時半～19 時 食事配膳、お弁当配布、サンクスカードの説明

【メニュー】

お弁当→おでん・ご飯・フルーチェ・お菓子



食事→おでん・ご飯・フルーツ寒天・お菓子・ツムツムおもちゃ



【感想】

私は11月27日(金)に開催された子ども食堂に参加させていただいた。この日はその場で食事をする人と、お弁当で持ち帰る日人を合わせて、約40名の方が参加した。私以外のボランティアスタッフとしてよりそい訪問サポートなごやから連携調整員の方が今回は参加をしていた。また、ボランティアスタッフとしての参加ではなかったが、社会福祉法人名古屋市北区社会福祉協議会から地域福祉推進スタッフの方が岡田さんにインタビューをしに来ていた。そのため、いつもよりも人が多くにぎやかな会となった。今回、私は子ども食堂のお手伝いのほかにサンクスカードの配布の作業も行った。同期のゼミ生が他の子ども食堂でサンクスカードを配布した際に、サンクスカードを配ることに集中してしまい、お手伝いがあまりできなかった。という話を聞いていたため、私はその反省事前に聞いていたことを生かし、サンクスカードの配布をしようと決めていた。結果的に今回は

その場で食事をしていく人よりもお弁当という形を選択していた人の方が多く、私がお弁当の受け渡しを担当していたため、ボランティアスタッフとしてのお手伝いもサンクスカードを配布することもうまく両立することができた。しかし、今後も今回と同じようになるとは限らないため、気を付けていきたいと思う。サンクスカードを配布したときのお客さんの反応としては、全員の方が快く受け取って下さり、また「大変ね」、「頑張ってるね」などとお声がけをいただくこともあり、配布している側をしてもとてもうれしかった。また、1人のお客さんにサンクスカードを渡そうとすると以前、他の子ども食堂でももらった。という方がいた。その人には二重になってしまうため、渡さなかったが、おかださんの台所だけではなく、他の子ども食堂にも行っている人もいるのだと思った。

今はコロナウイルスの影響でお弁当を選択する人が増えていると思う。だが、またいつか子ども食堂に集まり、みんなでご飯を食べられる日が来るのを願っている。

おかださんの台所活動報告書③

C318014 梅田藍子

私は10月31日(土)に行われた芋掘りに参加させてもらった。この芋掘りは北・北(ほくほく)いもの会といい、奈良県立橿原考古学研究所友史会5NO. 1108 古墳見学会名古屋本部、北区郷土史研究会会長古代遊学会運営委員、J A味鋤支店支部長会長、加藤新一朗さんを中心に毎年10月に開催されているものである。北・北いもの会は平成10年に地元味鋤の特産品である「サツマイモ」をもっと地域に愛着を持ってもらおうという目的で地元の有志を中心に設立された。今回はおかださんの台所に普段来てくださっているお客さんを中心に開催されていた。

私は10時ごろに到着し、参加者の方の確認と資金の回収に周っていた。参加者はおよそ30人ほどであった。芋掘りは最初から掘るとなると、かなり掘り進めないといけないため、小さな子どもは難しかったり、うまく掘り起こせない可能性がある。そのため、事前に少し掘り起こしされていたそうだ。そのため小さな子どもでも簡単に芋を掘り起こすことができていた。芋掘り自体は1時間ほどであった。参加者の中に終盤になって到着した親子がいた。芋掘りを始めようとしたが、今回掘ることができるスペースにある芋がほとんど掘り起こされてしまっていた。そこで、本来掘り起こす予定のなかった場所を開拓させて、無事にその親子も芋掘りを楽しむことができていた。芋掘りの終了後に皆で集合写真を撮った。

最終的に取れた芋は約120kgであった。どのように配るかを岡田さんは悩んでいた。なぜなら、ある程度の分量を定めて配るとどうしても量や芋の大きさに差が出てしまうからだ。そこで悩んだ結果参加者には自由に好きなだけ取ってもらう形式をとっていた。私はさすがに120kgもあれば、多く余るだろうと思っていたが、私の想像をはるかに超え、すぐに芋はなくなっていた。芋はそのまま食べても、料理やお菓子など様々なレパートリーがあるため、皆が多く持ち帰ったのだろうと考えた。

私は北区に住んで長くなるが、正直の芋掘りの場所を認識していなかった。今のコロナウイルスが流行している中、遠くに行かなくても芋掘りを楽しむことができるのは、子どもたちにとってうれしいことであったと思う。来年の開催の時にはコロナウイルスが終息して、もっと自由に開ができるようになっていればいいと思う。



芋掘りの様子

PR看板



約 120 kgの芋

おかださんの台所活動報告書②

C318014 梅田藍子

私は9月24日（木）の子ども食堂と29日（火）のフードパントリーに参加させていただいた。子ども食堂としては2回目の参加で、フードパントリーは初めての参加となった。まず、子ども食堂の活動記録を報告していく。

【活動の流れ】

- 16時半～17時半 お弁当のご飯をパックに詰める作業を手伝う。リンゴを剥く。
17時半～18時半 お弁当を頼んでいたお客さんに渡す作業と来てくれたお客さんに料理を運ぶ作業をする。

【メニュー】

ご飯・鶏肉のトマト煮・焼き鮭・かぼちゃの煮物



【感想】

私は7月以来の2回目の参加となった。おかださんの台所は17時半から始めるのが、その日は開始時刻になってもなかなかお客さんが現れなかった。お弁当を予約していた人はだんだんとき始めたが、食べにくるお客さんがその日はほとんど来なかった。そのため、空いている時間に雑談をしながら来る人を待っていた。コロナがだいぶ落ち着いたというのにも関わらず、なぜかお客さんが減少傾向にあるという。この原因は正直わからないと頭を悩ませていた。学校が始めた関係で時間がうまく取れなくなったのか、それともたまたまその日は都合がつかなかったのかなど考えられる理由はあるが、本当のところはわからないので、また経過を見ていきたいと思う。

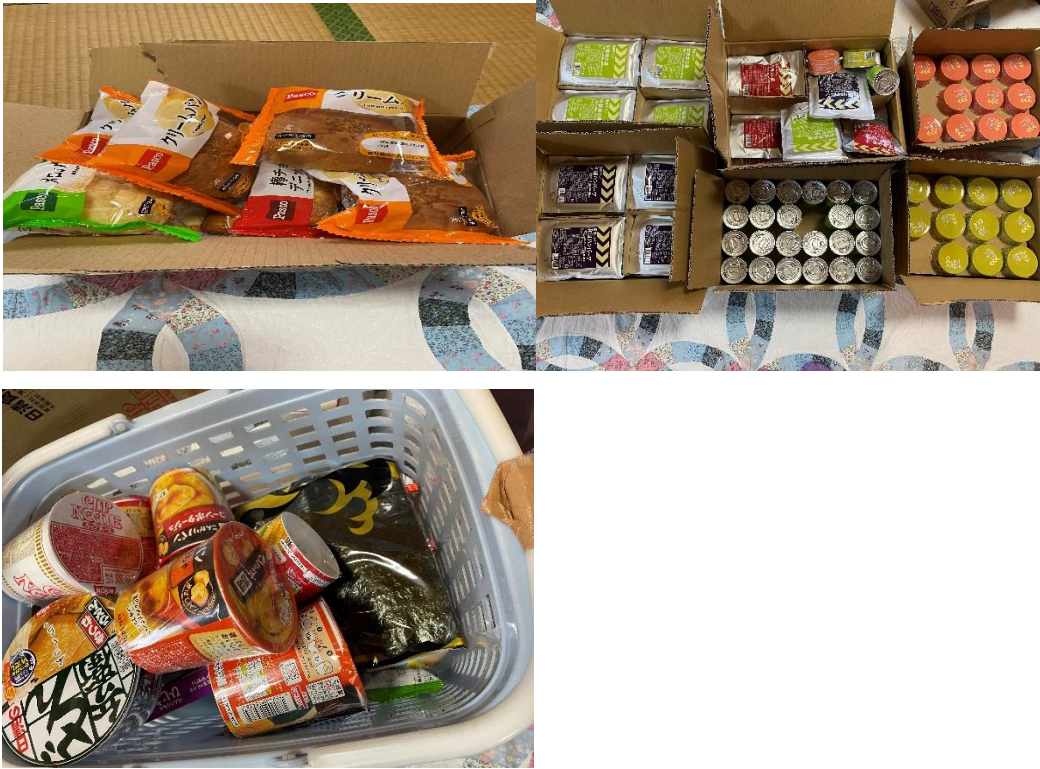
次にフードパントリーの活動記録を報告していく。

【活動の流れ】

- 16時半～17時半 寄付された食材の袋詰め
17時半～19時 来てくれたお客さんに食材の手渡しと消毒係

【寄付された物】

パン・カップスープ・カップラーメン（名東ロータリークラブ）
缶詰・レトルト食品（社会福祉法人 愛知県共同募金会）
マスク（近所の方の手作り）



お好み焼き（大潮屋）

水

【感想】

私は今回初めてフードパントリーというものに参加させてもらった。フードパントリーは子ども食堂に比べて準備をするのが大変という話を聞いていたが、実際に寄付された食品の量を見るとそのことが実感した。前回の子ども食堂の時はお客さんがあまり来ず、心配されたが、そんなことはまるでなかったかのように開始時刻から多くのお客さんがやってきてくれた。今回は全員に共通して、パン1個・カップスープ・カップラーメン・水・お好み焼き・絆創膏・マスクを配布し、缶詰は6種類の中から1つ選ぶ形であった。缶詰やレトルト食品は簡単に調理することができる品であるため多くの人がありがたいと言っていた。私は玄関でお客さんを迎え、最後にマスクを選んでもらい、水とお好み焼きを手渡しする作業をやらせていただいた。お好み焼きは大潮屋という近所の方は大抵知っているお店からの寄付であったため、今夜の1品が増えたと笑顔を見せる人が多かった。大潮屋は毎回お好み焼きの引換券かお好み焼き20個を渡してくれるそうだが、引換券となると期限が決められているため交換しにやっこない人もいるため、多くは直接配布する形をとっているのだそうだ。

フードパントリーの空いた時間に岡田さんと話していたが、フードパントリーとなるとお年寄りの方が来ないと言っていた。そもそもお年寄りの方がフードパントリーという言葉を理解できておらず何が行われているのかわからない人が多いという。子ども食堂の宣伝のチラシにはスペースがなく、フードパントリーの説明までしている枠がないため伝わっていないのだという。また、若い母親たちが入っていくのを見るとお年寄りの方は遠慮

してしまうのではないかと考えられる。私としてはお年寄りの方も是非フードパントリーにも参加してもらいたいと思っているため、入り口にフードパントリーの説明を大きく書くなどを実践してみたりするのはどうかと考えた。

おかださんの台所報告書①

C318014 梅田藍子

【活動の流れ】

17 時～おかださんにおかださんの台所を設立するまでの経緯を聞く

17 時半～子ども食堂開始（今回から完全予約制）

19 時半～子ども食堂終了後、ご飯をいただく

【おかださんの台所の経緯】

平成 29 年 7 月にスタート。わいわい子ども食堂などを見学し、子ども食堂のことについて学ぶ。初めは 2 人ほどしかいなかった参加者も半年を過ぎたあたりから 2 桁の人数になると、徐々に地域に溶け込んでいくようになる。昨年 4 月から今年 3 月までの計 12 回の参加者は子ども 337 名、大人 178 名、合計 515 名となっている。

【コロナ禍での活動・対策】

3 月からは弁当の配布を行っていた。

玄関から入るとすぐにアルコール消毒をし、感染予防を行っていた。

【仕事内容と感想】

私の自宅から自転車で 5 分ほどのところにあるにも関わらず、今回まで知らなかったことに驚いた。今まで参加した子ども食堂の中でも 1 番こじんまりとしており、アットホームな雰囲気が人気の秘訣だろうと思った。コロナウイルスの影響もあり、一気に人が集まることを防ぐために今回から第 1 部と第 2 部に分けて、完全予約制にすることにしよう。3 年目に入ると新規のお客さんというよりも顔なじみの人がほとんどで、おかださんの携帯電話にはほとんどの人の連絡先も登録してあるという。他の子ども食堂と少し異なるのが高齢者の利用率である。おかださんの台所は地域の学区からの支援が多く、特に町内会長の方がいろんな高齢者の方に一人でご飯を食べているなら子ども食堂においでと声をかけていることが強く家族だけでなく高齢者も多く利用している。実際に一人で食べに来ている方もいた。町内会長の方は宣伝活動だけでなく、おもちゃも寄付してくださるそう。今回はたくさんあるということで子ども 1 人につき 3 つまでおもちゃ（折り紙、マスク、図工に使えるような飾りなど）をもっていいということで、子どもたちも喜んで選んでいた。大人への特典としては、フリーズドライのスープや缶詰、近所のお好み焼きとの引換券と行くだけでいろいろな特典が付いてくるので非常にありがたい場所だと思った。

当日のメニューはちらし寿司、お味噌汁、缶詰の杏仁豆腐であった。仕事内容として、ちらし寿司はすでにパックに詰められていたため、お味噌汁と杏仁豆腐の準備、お皿の片づけがメインであった。ちらし寿司が食べられないお子さんには私が缶詰の焼き鳥と卵で親子丼もどきを作らせてもらった。しかし、確認もしないで作ってしまったため、2 皿作ったのだが、1 皿でいいと言われてしまった。これは確認を取ってから行動するべきだと学ばされた。また、途中からサラダ代わりにトマトが出てきたりと、これは大きな子ども食堂ではないからこそできることだと感じた。主に夫婦で経営しているため、基本的にパックやお箸、コップなどは使い捨てにしているという。

初めてうかがわせてもらったのにも関わらず、おもてなしをたくさんしていただき、いろいろなお話も聞くことができたので、また機会があれば参加させていただきたいと思う。



町内会長から頂いた
おもちゃ



ちらし寿司と
お味噌汁



缶詰と
フリーズドライ

名古屋市北区「子ども食堂 おかださんの台所」
2020年7月21日 子ども食堂報告

2020/7/29 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：名古屋市北区志賀町三丁目52



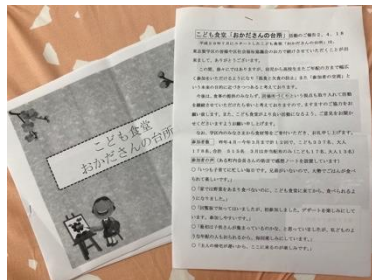
開催日時：毎月20日前後 17:30~19:30

7月21日のメニュー：ちらし寿司、みそ汁、杏仁豆腐



今回の自分の大まかな流れ：待機→配膳補助→ごはん→解散

7月21日(火)に子ども食堂 おかださんの台所にボランティアとして参加した。16:30頃に会場に着き、玄関先で手指消毒と検温を済ませた。17:00頃に梅田さんとも合流した。開始17:30まで岡田さんご夫妻は、私たちにお茶やレモンケーキ、さらに資料までも用意し大変親切に対応してくださった。



岡田さん激推しのレモンケーキ
子どもたちにも配布された。

開始時刻の約 5 分前にテイクアウト利用者がみえ、岡田さんが玄関先でちらし寿司や即席スープ、バナナ、次回の案内が入った袋を手渡していた。それからすぐ、利用者が来始めた。今回は、前半と後半に分けての開催。参加費は、小中学生は 100 円、高校生以上は 300 円、70 歳以上の方は 200 円。合計で 35 人程度の利用者がやって来た。母と子、父母子どもの 5 人家族、中年女性 1 人など顔ぶれは様々であった。このようにおかださんでは利用者子どもとその親に限定することなく、1 人暮らしや高齢者の方 1 名からでも利用できるようにしている。地域の居場所となれば、というおかださんのコンセプトがあってこそだと思う。今回私と梅田さんは主に、配膳の補助のお手伝いをした。インスタントのみそ汁を作り、杏仁豆腐を盛り付けして、利用者のところまで運んだ。また、とある利用者のうち子ども 2 人がちらし寿司を食べられなかった。しかし、ご夫妻はその子どもたちでも他に食べられそうなものを有り合わせで作り食べてもらいたいとのことだった。焼き鳥の缶詰めと卵があったため、梅田さんが親子丼風に作ってみようという提案してくれた。キッチンをお借りし、私たちがエセ親子丼を 2 食作ってみたら美味しそうな出来栄になった。その子どもたちに親子丼を持って行ったら、「レモンケーキを食べたから、もうお腹いっぱい」と言われてしまった。子どもたちのお母さんもととても申し訳なさそうにしていた。結局のところ、1 食分は食べてくれるとのこと嬉しかった。そのあと私たちはごはんを頂き、解散という流れだった。岡田さんは買い物へ行くついでとはいえ、私を黒川駅まで車で送ってくださった。



救世主・梅田、降臨。

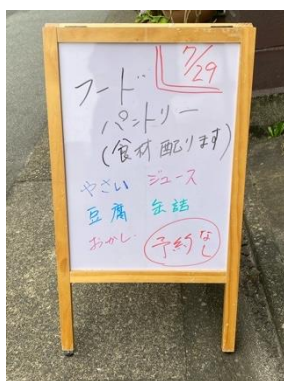
おかださんでは、第 1 回開催時(2017 年 7 月)の利用者は 2 人のみだったが、開催から半年ごろには数十名に増え、今となっては 50~60 人の参加者で賑わうようになったそう。しかし、コロナの影響を受け、3~6 月は玄関先で弁当配布やフードパントリーを行っていたが、7 月からは晴れて通常の子どもの食堂を開始したそう。開催とはいっても、規模は以前よりも縮小し、消毒・検温・換気は必須、完全電話予約制となった。子どもの食堂開催における電話予約は今回が初の試みだったそう。子どもの食堂案内のチラシが行き渡るように、地域の回覧板や東志賀小学校に協力を得ている。そのチラシに電話予約の詳細は表記はしたが、利用者も慣れていないせいか当日の開催直前に電話があったのを私自身も目にした。直前に食事数が増えたのにも関わらず、岡田さんご夫妻は臨機応変に食事の準備をされていた。

今回はちらし寿司の食事に加え、子どもにはおもちゃや文房具等を3点、大人にはバナナと即席スープの手土産を帰り際に渡していた。このおもちゃ文房具等というのは、先述した町内会長さんや中年女性からの寄付だとのこと。ポーチや入れ物カゴ、色画用紙やキャラクターの絵柄がついたノートなど本当に様々だった。食品類に関しては、フードバンクからの寄付だけでなく、地域の人からの個人的な寄付もあり実に様々な寄付で運営ができているという。岡田さんはこれらの寄付に対し大変ありがたいとおっしゃっていた。



子どもたちがおもちゃや文房具を選ぶ様子

今回、おかださんへの参加は初めてだったが、アットホームな雰囲気と岡田さんご夫妻の細やかな対応が大変印象的だった。また、できることを精一杯したいという姿勢も感じられた。愛知子ども食堂ネットワークでおかださんがあることは知ってはいたが実際に足を運ぶ機会がなかったため、今回子ども食堂再開の場面に立ち会えてよかった。また機会があれば是非参加したいと思う。



次回フードパントリーの案内